

新型コロナウイルス新規変異株「オミクロン株」

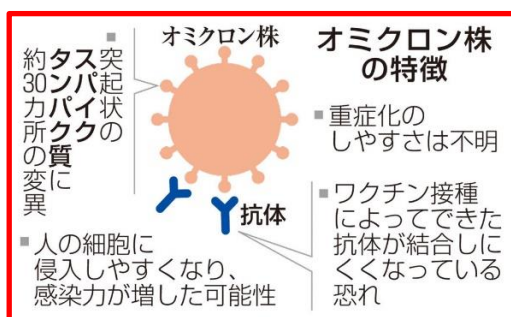
新型コロナウイルスの新しい変異株である「オミクロン株」が、2021年11月11日に南アフリカのボツワナで採取された検体から初めて検出されました。

南アフリカハウテン州では、特に学校や若者の間で感染者が急増しましたが、現在検査されている検体の半数以上がオミクロン株であることから、保健省はすでにハウテン州ではオミクロン株が主流と推定。デルタ株が広がっていた地域であり、デルタ株から置き換わって広がったことから、オミクロン株はデルタ株よりも感染力の強さを指摘されています。

オミクロン株はまだ十分に分かっていない事が多く、南アフリカでは感染者のうち新型コロナウイルスの遺伝子配列まで調べられているのはごく一部で、現時点でデルタ株よりも強いかを結論づけられず、重症度が高いとの報告もありませんし、感染者で特徴的な症状もなく、無症状の人もいるとの事です。

オミクロン株が広がってきている南アフリカやその他の地域での、さらなる情報が待たれます。日本も水際対策を強化し、国内への侵入を出来る限り、阻止・遅延させる必要があります。

オミクロン株であっても、我々が出来る感染対策に変わりはないです。手洗いや3つの密を避ける、マスク着用等の感染対策を続けて行なう事。また、ワクチンはオミクロン株に対しても有効な可能性が高く、今後予定されている接種も時期が来れば、是非、ご検討を。接種後もこれまでと変わらない感染対策を続けましょう。



参考資料:YAHOO! JAPAN ニュース